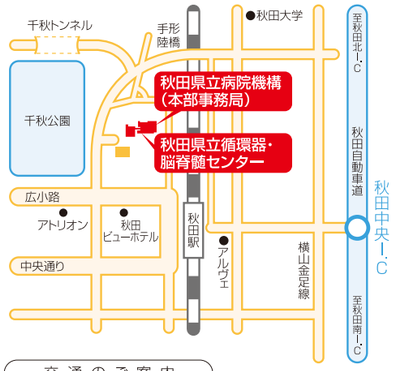
秋田県立病院機構（本部事務局）
Akita Prefectural Hospital Organization

〒010-0874 秋田県秋田市千秋久保田町6番10号
TEL.018-833-0115 FAX.018-834-0733
https://www.akita-hos.or.jp/

秋田県立循環器・脳脊髄センター
Akita Cerebrospinal and Cardiovascular Center

〒010-0874 秋田県秋田市千秋久保田町6番10号
TEL.018-833-0115 FAX.018-833-2104
https://www.akita-noken.jp/



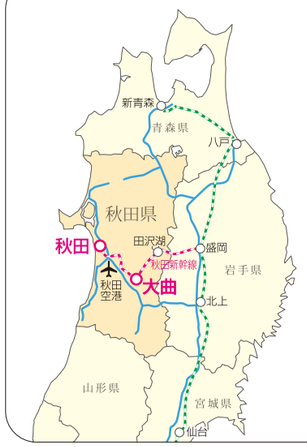
交通のご案内

●自動車利用
秋田中央ICより約15分

●JR利用
JR秋田駅から徒歩約7分

●飛行機利用
秋田空港より秋田駅西口までリムジンバスで約40分

Access



秋田県への交通

●飛行機
東京（羽田） ←約65分→ 秋田
札幌（千歳） ←約55分→ 秋田
名古屋（中部） ←約80分→ 秋田
大阪（伊丹） ←約80分→ 秋田

●新幹線
JR東京駅より
JR秋田駅まで約4時間
JR東京駅より
JR大曲駅まで約3時間30分

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター
Akita Prefectural Center for Rehabilitation and Psychiatric Medicine

〒019-2492 秋田県大仙市協和上淀川字五百刈田352
TEL.018-892-3751 FAX.018-892-3759
https://www.akita-rehacen.jp/

交通のご案内

●自動車利用
協和ICより約3分、JR羽後境駅より約5分、
秋田空港より約20分、JR秋田駅より約45分

●JR利用
[JR奥羽本線羽後境駅下車]
JR秋田駅よりJR羽後境駅まで約25分
JR大曲駅よりJR羽後境駅まで約25分

●バス利用
[羽後交通境営業所乗車、リハセン前下車]
（または坊台下車 徒歩約5分）
羽後交通境営業所より
淀川線福部羅行で約10分
※羽後境駅と羽後交通境営業所間は徒歩約3分です。
※帰りは羽後交通境営業所行にお乗りください。

地方独立行政法人
秋田県立病院機構

Akita Prefectural Hospital Organization

秋田県立循環器・脳脊髄センター

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

その専門医療を統合する

地方独立行政法人 秋田県立病院機構

秋田県民の健康を支える病院機構として進化し続けます

地方独立行政法人
秋田県立病院機構 理事長　鈴木　明文

2009年4月、秋田県立脳血管研究センター（脳研センター；1968年12月開設）と秋田県立リハビリテーション・精神医療センター（リハセン；1997年4月開設）は、地方独立行政法人秋田県立病院機構（病院機構）が運営する病院として再出発しました。

脳研センターは「脳卒中撲滅」という県民の強い願いを背景に、開設当初から24時間365日体制で診療を行い、脳卒中の研究と有効な治療法の開発にも全力を注ぎました。その後、対応する疾患を脳神経疾患全般、さらに循環器疾患へ拡げ、リハビリテーション医療の充実も行いました。循環器医療については2015年4月から不整脈のカテーテル治療が可能となり、2019年1月から虚血性心疾患のカテーテル治療も可能になりました。2019年3月には98床の脳心血管病診療棟を新たにオープンし、脳と循環器の包括的な医療の提供を始めました。高齢化の進展に伴い脳にも循環器にも病気を持つ県民が増えています。その対策として、最新の機器も導入した新たな診療棟において脳神経の専門医と循環器の専門医が共同で包括的な医療を提供いたします。一方、脊髄・脊椎疾患のため生活の質を維持できなくなるご高齢の県民も増えてきました。その対策として2015年5月から脊髄脊椎外科診療部を開設しました。脳研センターは脳卒中を研究し治療する病院として発足しましたが、その後さまざまな情勢の変化に応じて拡張や整理を繰り返してきました。そして、新たな診療棟のオープンに合わせ担う医療を明確に示すよう、2019年3月1日から「秋田県立循環器・脳脊髄センター」へ改称しました。研究についても研究組織を改組し、新たに「研究所」として再出発しました。

リハセンは、脳卒中後遺症などの身体障害やさまざまな原因で生じる精神障害から回復・改善し家庭や社会に復帰したいという県民の強い願いに応え、リハビリテーション科と精神科が協働し医療を提供する病院として開設されました。県は、2000年6月精神科救急の全県拠点病院に指定し、2009年4月には秋田県高次脳機能障害相談・支援センターを、2013年10月には秋田県認知症疾患医療センターをリハセンに設置しました。当初は200床でしたが、1998年には250床、2001年には300床に増床し、現在はリハビリテーション科診療部100床、精神科診療部100床、認知症診療部100床の内訳になっています。リハビリテーション科診療部では、効果の高い治療機器や新たなリハビリ技術の導入を積極的に行い、質の高いリハビリテーション医療を常に提供しています。さらに、県内医療機関や介護・福祉との連携にも積極的に取り組んでいます。精神科診療部では全県拠点病院として24時間365日体制で救急対応する一方、地域の輪番病院としての対応も行っています。そして、脳刺激療法など有効な治療法を積極的に導入し常に最新の医療を提供するよう努めています。認知症診療部では認知症疾患医療センターとしての役割を推進するとともに、県民への啓発活動や認知症に対応する人材育成も積極的に行っています。

両センターは災害医療も担い、それぞれ国のDMAT（災害派遣医療チーム）、DPAT（災害派遣精神医療チーム）を配備しています。東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震など県外の大規模災害の支援にはDMAT、DPATのみならず、避難所の支援を行う医療チームも派遣してきました。県内の災害支援も行ってきました。循環器・脳脊髄センターは災害拠点病院に指定され、県の災害医療コーディネートチームにも参画しています。

病院機構は、両センターが公的専門医療機関として質の良い医療を継続して提供するため、人材の育成・確保や体制整備を推進し、県民からより良い評価をいただけるよう努めてまいりました。2019年4月から3期目の中期目標期間に入りました。「健康寿命日本一」を目指し、病院機構の総力を結集し、県内の医療機関等と連携して県民の健康を支える一翼を担ってまいります。

地方独立行政法人
秋田県立病院機構

健康寿命日本一
を目指し
県民の健康を
支えます。

秋田県立 循環器・脳脊髄センター

循環器疾患、脳神経疾患及び脊髄脊椎疾患の研究を行い、脳卒中や心筋梗塞などの救急医療をはじめ各種の高度で専門的な医療をスタッフがチームを組んで提供しています。

秋田県立 リハビリテーション・精神医療センター

身体や精神に生じた障害の軽減や回復を目指し、高度で専門的なリハビリテーション医療、精神医療、認知症医療をスタッフがチームを組んで提供しています。

理　念

秋田県立病院機構は、循環器・脳脊髄センターとリハビリテーション・精神医療センターを一体的に運営し、循環器疾患、脳脊髄疾患、精神疾患、認知症疾患に対しリハビリテーションを含めた質の高い専門医療を提供することにより、秋田県民の健康を支えます。

基本方針

- 県立病院機構の総力を結集し、健康寿命日本一に向け医療・医学の発展に努めます
- 質の高い医療従事者の確保・育成を行います
- 専門的な最新医療の提供に必要な医療設備・機器の導入に努めます
- 患者の皆さまの権利を尊重し、快適で安全な療養環境を提供します
- 県内医療機関・介護福祉施設との連携を強化します
- 過重労働のない、働きやすい職場づくりを行います
- 安定した経営基盤に立った病院運営を目指します